



農林中央金庫



2024 年 1 月 19 日
バイオパーク株式会社
JA 島原雲仙
農 林 中 央 金 庫

廃棄人参の有効活用について (持続可能な地域農業支援・生産者所得向上の取組み) ～地産地消のアナザーストーリー～

バイオパーク株式会社（以下「バイオパーク」）と JA 島原雲仙は、農林中央金庫長崎支店からの紹介を受け、廃棄人参の有効活用を開始することとなりました。これにより、バイオパークは高騰が続く飼料代の抑制と動物たちへの安心・安全な食事の提供を実現できるとともに、廃棄人参の新たな活用法開拓を通じて、生産者所得の向上やサステナビリティ課題の解決にも繋がる取組みです。

バイオパークが運営する「長崎バイオパーク」は 1980 年に開園し、「見ていだけにはつまらない！遊んで、学んで、ふれあって。」をコンセプトとしたテーマパークであり、開園以来、多くの来園者のみなさまに親しまれてきました。近年、動物たちの餌代が上昇しており、動物たちの健康を守り続けるためにできるだけ安価で、かつ安心・安全な食事を安定して確保することが課題でした。本取組みにより、こうした課題を解決することができます。

JA 島原雲仙管内では、熱意ある生産者のみなさまの絶え間ない努力により、近年、人参をはじめ馬鈴薯やいちご、ブロッコリーの生産量が増加し、安心・安全な県産野菜をみなさまに親しんでいただいています。一方、生産の過程では規格外品も発生し、生産者が愛情込めて作った野菜がその使命を果たすことなく、その一部が廃棄されていることが課題でした。本取組みは、JA 島原雲仙管内の株式会社酒井農園が、発生した廃棄人参をバイオパークへ運搬することで実現しました。本取組みを通じて、廃棄予定の野菜に商品価値が生まれ、これまで費用を掛けて廃棄していた規格外品が有効利用されることで生産者所得の向上が期待できます。

農林中央金庫は、「持てるすべてを「いのち」に向けて。ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます」を存在意義（パーパス）として定めており、農業者のみなさまと、消費者・産業界のみなさまを繋ぐ「架け橋」となることを目指しています。本取組みは、バイオパーク・JA 島原雲仙の課題解決を通じて、SDGs 社会課題「2 飢餓をゼロに」「12 つくる責任つかう責任」の解決にも資するものと考えております。今後も、地域のみなさまの課題解決に向けた取組みを支援してまいります。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 長崎支店 営業第一班（竹井・本山） 095-827-3114